

「枕草子」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

枕草子（第一段）

春はあけぼの。①やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、②闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、③ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさしてA山の端いと近うなりたるに烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、④飛びいそぐさへあはれなり。B雁などつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫音など、⑤はた言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

問1 下線部【①】～【④】を、それぞれ現代仮名遣いに直して書きなさい。

【①】

【②】

【③】

【④】



問2 「あけぼの」の意味を現代語で答えなさい。

問3 「さらなり」の意味を現代語で答えなさい。

問4 「なほ」の意味を現代語で答えなさい。

問5 「まいて」の意味を現代語で答えなさい。

問6 「いと」の意味を現代語で答えなさい。



問7 次の言葉の意味として最も適切なものを、それぞれ選択肢から選び○で囲みましょう。

- | | |
|--------------|-----------|
| 【①】 やうやう | 【②】 山ぎは |
| 【③】 たなびきたる | 【④】 をかし |
| 【⑤】 あはれ | 【⑥】 はた |
| 【⑦】 つとめて | 【⑧】 つきづきし |
| 【⑨】 ゆるびもていけば | 【⑩】 わろし |

【選択肢】

- | | |
|-------------|----------------|
| ア：可哀想 | イ：めんどうくさい |
| ウ：趣がある | エ：良くない |
| オ：笑ってしまう | カ：風情にあっている |
| キ：しみじみとしている | ク：山のすそ |
| ケ：ひっばっている | コ：空と山の接しているところ |
| サ：努力 | シ：早朝 |
| ス：だんだんと | セ：やっと |
| ソ：変わっている | タ：ゆるんでいけば |
| チ：あっという間に | ツ：これまた |
| テ：ゆっくり持っていく | ト：横に長くかかっている |

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 【①】 | 【②】 | 【③】 | 【④】 |
| 【⑤】 | 【⑥】 | 【⑦】 | 【⑧】 |
| 【⑨】 | 【⑩】 | | |



問8 次の文の現代語訳を書きなさい。

- 【①】 月のころはさらなり
- 【②】 はた言ふべきにあらず
- 【③】 またさらでもいと寒きに

【①】

【②】

【③】

問9 「山ぎは」と対照的に使われている言葉を本文から抜き出して答えなさい。

問10 「闇もなほ」とあるが、「闇」と対照的に使われている言葉を本文から抜き出して答えなさい。

問11 下線部A「山の端いと近うなりたる」とあるが、何が山の端に近づいているのか、本文中の言葉を書き抜いて答えなさい。

問12 下線部B「まいて雁などの…いとをかし」とあるが、この部分の意味を最も適切に説明しているものを次の中から選び○で囲みましょう。

- ア：鳥の後を追いかけるように雁が急いで続いていく姿がとても小さく見えるのは趣がある
- イ：鳥が寝ぐらへ急ぐ姿もしみじみとするが、まして雁が連なってとても小さく見えるのは趣がある
- ウ：鳥が寝ぐらへ急ぐ姿もしみじみとするが、鳥から逃げようと雁が連なってとても小さくなっていく姿は趣がある
- エ：雁が鳥の寝ぐらを探そうと急ぎ飛ぶ姿は哀れだが、連なってとても小さくなっていく姿は趣がある



問13 「ぬるくゆるびもていけば」とあるが、何が緩んでいくのか。もっとも正しいものを次の中から選び○で囲みましょう。

- ア：火桶の火の勢い
- イ：降り積もった雪
- ウ：寒さ
- エ：霜

問14 冬について書かれている部分で、作者が「良い」と思っているものとしてハッキリ書かれているものを次の中から全て選び○で囲みましょう。

- ア：早朝
- イ：雪が降ること
- ウ：霜がとても白いこと
- エ：とても寒いこと
- オ：炭を持って廊下などを歩くこと
- カ：昼になること
- キ：寒さがゆるむこと
- ク：火桶の火が白い灰ばかりになること

問15 作者が四季の良さについて、聴覚で捉えている一文を本文からぬき出し、初めの5字を答えなさい。

問16 「枕草子」の第一段の中で、「をかし」「あはれ」とは対照的に使われている言葉を本文の中から書き抜いて答えなさい。

問17 「枕草子」の作者を漢字で答えなさい。

問18 問8の作者が「枕草子」を書いた時代を答えなさい。



問19 「枕草子」が書かれた背景として、正しいものを次の中から選び○で囲みましょう。

- ア：作者が幼少期に過ごした、思い出深い田舎での四季の様子について書かれた
- イ：作者のもとを訪ねた人々から伝え聞いた話をもとに、四季のそれぞれ良いところを書いた
- ウ：作者が仕えていたところで、日々感じた四季のそれぞれの良いところについて書いた
- エ：作者がずっと憧れていた土地を訪ねた時に感じた、四季のそれぞれの良いところについて書いた

問20 「枕草子」は、次のうちのどの文学分野として書かれた作品か答えなさい。

- ア：小説
- イ：随筆
- ウ：詩
- エ：紀行
- オ：日記
- カ：伝記



「枕草子」定期テスト対策練習問題（解答）

- 問1 【①】 ようよう白くなりゆく山ぎわ
【②】 闇もなお、蛍の多く飛びちがいたる
【③】 ほのかにうち光りて行くもおかし。雨など降るもおかし
【④】 飛びいそぐさえあわれなり
【⑤】 はた言うべきにあらず
- 問2 明け方
- 問3 言うまでもないが
- 問4 やはり
- 問5 まして
- 問6 とても（たいそう）
- 問7 【①】 ス 【②】 コ 【③】 ト 【④】 ウ
【⑤】 キ 【⑥】 ツ 【⑦】 シ 【⑧】 カ
【⑨】 タ 【⑩】 エ
- 問8 【①】 月の（出ている）時はもちろんのこと
※「さらなり」の意味が「もちろん」とか、「当たり前」という意味でとらえられているかがポイント
【②】 これまた言うまでもない
【③】 またそうでなくても、とても（すごく）寒いときに



問 9 山の端

問 10 光

問 11 夕日

問 12 イ

【解説】「まいて」とは、「まして」という意味。

問 13 ウ

問 14 ア・イ・ウ・オ

問 15 日入り果て

問 16 わろし

【解説】作者がそれぞれの季節の中で「をかし（趣がある）」や「あはれ（しみじみとしている）」ものとして、「良い」と感じているものを書いているのに対して、対照的に「良くない」ものを書くときに「わろし」という言葉を使っている。

問 17 清少納言

問 18 平安時代



問19 ウ

【解説】枕草子は、作者である清少納言が一条天皇の中宮定子の女房として宮中で仕えていた時に、感じた四季のそれぞれ良いところについて書いた作品。

問20 イ

※当テストでは、著作権侵害を避けるために本文の掲載を控えています。

問題・解答の内容が本文のどこにあるのかを示すために、段落と教科書に掲載されているページ上の行数を表記しています。

